

青年部会コーナー

陶芸教室

澤村明日香 (株)グッドホーム

「和光会」の子どもたちと5年ぶりの陶芸体験、創造力を発揮する楽しいひととき



8月4日(日)、新都田の「あい工房(株)」で、陶芸教室が開催されました。これは、児童養護施設に暮らす子どもたちとの交流を目的としたイベントで、コロナ禍によって4年のブランクを経て再び実現しました。約20名の子どもたちが参加し、陶芸の世界に触れる貴重なひとときを過ごしました。

この日の陶芸教室には、静岡文化芸術大学の学生たちもボランティアとして参加し、子どもたちをサポートしました。子どもたちは、猫の置物作りに挑戦しましたが、その創造力は実に自由でユニークでした。魚やネズミを頭に載せた猫、自分の好きなゲーム機やラーメンを持った猫、さらには猫ではなく犬を作るなど、各自の個性がしっかりと表現された作品が次々と完成しました。陶芸に取り組む子どもたちは実に楽しそうでしたが、周りの大人たちも作業に集中している姿が印象的でした。泥だらけになりながらも、一生懸命に形を作り上げる姿に、見守る人々も温かい気持ちになりました。

陶芸の後は、近くの「すたみな太郎」でのバイキングが待っていました。寿司、お肉、カレー、デザートなど、子どもたちの好きそうなメニューが豊富に揃ったバイキング。子どもたちは、目の



前に並ぶ料理に喜び、笑顔いっぱいでお食事を楽しみました。その食欲に圧倒されながら、私はひたすらお肉を焼き続けることに専念しました。

この日一日の体験は、子どもたちにとって特別な思い出となり、大人たちにも心温まる時間となりました。陶芸教室での創造的なひとときと、バイキングでの楽しい食事が、子どもたちにとって心の癒しとなったことは間違いありません。社会貢献の一環として、このようなイベントを開催できたことに、深い感謝の気持ちを抱きながら、これからも続けていきたいと感じた一日でした。



静岡新聞
▼ 8月7日朝刊

子どもたちは、同工房のスタッフや静岡文化芸術大陶芸部の学生らの手厚きを受け、猫のオブジェの制作に挑戦した。部員と協力しながら粘土をこねて形し、尻尾や耳、足などの部位をくつつけた。竹串で思い思いの表情を描き、自分だけの作品に仕上げた。後日、同工房が釜で焼き上げて完成させる。

陶芸教室は、同工房の経営者社長が青年部会のOBとして、縁で20年以上前から続けている社会貢献活動。コロナ禍を経て5年ぶりに実施した。

浜松東法人会青年部会が招待
浜名区



粘土で猫のオブジェを制作する子どもたち
＝浜松市浜名区新都田のあい工房